

## テニュアトラック教員からテニュア教員に採用された方たちに その魅力を聞いてみました。

### 東京農工大学 桜井 香里 准教授



所属：東京農工大学  
大学院工学研究院

職名：准教授

テニュアトラック教員としての  
採用年度：平成18年

テニュアポストへの  
移行年度：平成23年

#### Q. テニュアトラック教員の魅力は何ですか。

最大の魅力は、特任准教授の立場で独立した研究室をもち、自由な研究課題に取り組めたことです。設備環境及び経済的・人的に大きな支援を得ました。具体的には、①スタートアップ資金と毎年の研究費が支給されたこと、②メンター教員による研究設備の提供や教育指導のサポート、③学内業務の免除、④専門分野の外部評価委員によるレビュー、⑤若手教員支援室による事務的支援です。

#### Q. その結果、どのような成果・効果がありましたか。

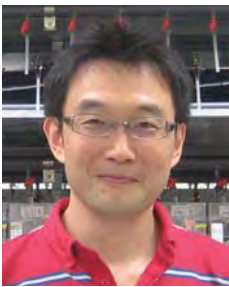
総合的な支援によって、米国からテニュア教員として赴任した直後から、新しい研究室を立ち上げることが出来ました。このような環境で新たな研究課題にチャレンジし、一定期間内に研究成果を得られました。

#### Q. テニュアポストに移行した後に必要な知見や力は得られましたか。

メンター教員や外部評価委員との交流は、研究室主催者としての判断力やバランス感覚を養うために特に重要だったと思います。

その他の仕組みとしては、独立した研究室スペースと配属学生とを与えられ、専攻会議など専攻内の活動に参加するなど、受け入れ専攻における配慮が挙げられます。これによってテニュア取得後には、専攻の一員としてスムーズに研究教育活動を継続することができたのではないかと思います。

### 九州大学 石谷 太 准教授



所属：九州大学  
生体防御医学研究所  
個体機能制御学部門

職名：准教授

テニュアトラック教員としての  
採用年度：平成18年

テニュアポストへの  
移行年度：平成23年

#### Q. テニュアトラック教員に応募したのはどのような理由からですか。

独立した研究環境で自身の関心のある研究に取り組めるという理由からです。

#### Q. テニュアトラック教員の魅力は何ですか。

研究資金や研究スペースだけでなく、ポスドクの人的支援を頂くことができ、前任機関からほぼ身一つの状態に着任したにも関わらず、着任2年目の年度当初にはいち早くフルパワーに近い状況での研究活動が可能となりました。また、研究に必要な動物実験室を十分に整備できたことも有り難かったです。

#### Q. その結果、どのような成果・効果がありましたか。

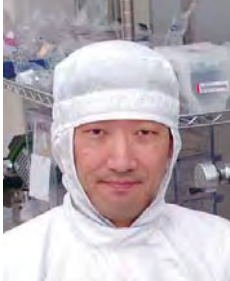
様々な支援により、テニュアトラック期間中にNature Cell Biology誌への掲載をはじめとする多くの研究業績をあげることに繋がりました。

私は現在35歳でまだまだ若輩者ではありますが、本制度で研究プロジェクト長になったことにより、同分野の研究者に早い時期から、私自身と私の研究の双方を認知していただくことができました。このことが国内外の研究者との共同研究や、他大学からの非常勤講師の委嘱など、様々な面で波及効果がありました。

#### Q. テニュアトラック教員を経験することにより、得たものは何ですか。

PIとして研究室を運営するのも初めてであり、研究資金の調達と運用の難しさを経験し、また、研究グループを率いる者としての責任や自覚を学ぶことができました。今後テニュアトラック制でPIとなる方々には自身の経験を踏まえてアドバイスできればと思っています。

## 大阪大学 高橋 幸生 准教授



所属：大阪大学  
大学院工学研究科

職名：准教授

テニュアトラック教員としての  
採用年度：平成19年

テニュアポストへの  
移行年度：平成23年

### Q. テニュアトラック教員の魅力は何ですか。

自らの研究に集中できる環境を提供され、適度な競争にさらされながら、よい成果をあげることが、将来の安定した研究活動に直結している点です。

### Q. テニュアトラック教員期間での研究環境はどのようなものでしたか。

科学技術振興調整費により毎年1000万円以上の研究資金の支援を受け、自立した研究環境のもと、研究活動を推進しました。

### Q. その結果、どのような成果・効果がありましたか。

大型放射光施設SPring-8にX線顕微鏡を構築し、世界最高分解能を有することを実証することができました。国内外の大学と共同で、ナノ組織観察にX線顕微鏡を応用し、権威ある科学雑誌で多数の研究成果を発表しました。研究成果は当該分野で高く評価され、光科学技術研究振興財団等より奨励賞、文部科学省より文部科学大臣表彰若手科学者賞（科学技術部門）を受賞しました。開発したX線顕微鏡は、電子顕微鏡に代わる観察手法として材料科学・生物学分野に大きなインパクトを与えるものでした。

## 北海道大学 佐竹 暁子 准教授



所属：北海道大学  
大学院地球環境科学研究院

職名：准教授

テニュアトラック教員としての  
採用年度：平成19年

テニュアポストへの  
移行年度：平成23年

### Q. テニュアトラック教員に応募したのはどのような理由からですか。

海外の研究所に在職しておりましたが、テニュアポストが用意されていること、自立的研究環境の確保が明示されていることに魅力を感じ応募しました。

### Q. テニュアトラック教員の魅力は何ですか。

特任助教として着任し、新しいことに挑戦できる自立した研究環境を既に用意していただき、とても感謝しています。この機会を活かし、オリジナリティ溢れた自分らしい研究室の立ち上げを目指すと同時に自分の研究ラボを立ち上げたことで、研究以外のことも考えるようになり、リーダー育成プログラムを通し、様々な経験を活かすことができました。そのサポートとしてL-Stationから外国人招聘などの支援をしていただきました。雑事に惑わされず、研究に専念できる環境の中で、様々な分野の同じ世代の研究者と交流できたことは、貴重な経験となりました。

### Q. テニュアポストに移行後はどのようなお気持ちですか。

3年目の中間評価に合格後、ホスト部局および全学でのテニュア総合審査を受ける事となり、平成23年1月1日付けで、ホスト部局地球環境科学研究院テニュア准教授として採用されました。地球環境科学研究院では、分子生物学と生態学、さらに経済学といった異なる分野を融合させて環境問題への解決を図る活動が求められており、こうした学際的な新たな分野を学ぶ学生のために尽力したいと考えます。